

## The Open Group Glasgow Conference ハイライト 第二日目

- \* 開催日時:2008年4月21日(月)~4月23日(水)
- \* 開催場所:Radisson SAS, Glasgow
  
- \* OPEN GROUP Conference in Glasgow  
<http://www.opengroup.org/glasgow2008/>

コンファレンスの第2日目は、アーキテクチャ・プロフェッションに焦点を当てた基調講演で開始した。Allen Brown 氏, President and CEO, The Open Group の歓迎の辞によりキックオフした。

最初に、Murat Erder 氏, Director, Deloitte が”Socialization and Syndication-The Ignored Half of Architecture”というテーマで基調講演を行った。

アーキテクトの典型的な視点は、象牙の塔から門番までである。多くのアーキテクチャ部門はアーキテクチャの策定に注力するだけで、社会性と企業連合については重要視していない。それについての2つの鍵とは、a) 如何にして市場をモデル化するか、そして b) ガバナンスであり、如何にしてプロジェクトを維持し、組織に対して価値を提供して行くかである。アーキテクトは テクニカル・スキルとともにソフト・スキル(マネージメントやコミュニケーションスキルなど)を持ち、組織の文化を認識する必要があると、氏はいう。さらに氏は、成功したアーキテクチャ・プロジェクトの主要な要因、ビジョンやコミュニケーション、財務、移行計画、組織、プロセス、ツールである TOGAF を参加者に紹介し、ガバナンスやステーク・ホルダのマネージメントの重要性を訴えた。

次に、Paul van de Merve 氏, Consulting Manager, Real IRM が”An EA Career Development Program Based on TOGAF and ITAC”というテーマで基調講演を行った。氏は、エンタープライズ・アーキテクチャのキャリアを育成するためには、5つのアーキテクチャ分野:ビジネスや情報、データ、アプリケーション、テクノロジーにおけるスキルと経験が必要であると、いう。氏は、Real IRM は TOGAF や ITAC が要求する特性に対して、アーキテクトのキャリアを評価していると述べた。Real IRM は、TOGAF,ITAC の双方のフレームワークや認証基準が求めているテクニカルやビジネス、ゼネラル・スキルがアーキテクトのキャリア育成に最も完全なものを与えてくれていると認識している。彼らの最終的なEAキャリア育成のフレームワークの中には、3つのディメンション、a) 5つのアーキテクチャ・ドメイン、b) アーキテクトが提供できる能力、c) 熟達レベルを包含している。

**Dennis Kerssens 氏, Principal Architect, Getronics, Netherlands** は、エンタープライズ・アーキテクチャのモデリングやビジュアラジングのための国際言語をもつ ArchiMate を紹介した。ArchiMate 言語は、The Open Group に移管されつつあり、今後は新たに発足した The Open Group の Archimate Forum で維持され、さらに強化されて行く。

**Gerard Coes 氏, Business Unit Manager, Business, Consulting & Technology, Capgemini Academy** は、“What Top IT Architect and Specialist Have in Common” というテーマで講演した。氏は、トップの IT アーキテクトと IT スペシャリストの真の特性、教育やスキル、経験、動機づけ、認証などについて言及した。さらに氏は、The Open Group の ITAC と ITSC プログラムの共通の認証基準の概要を説明した。

2つのプロフェッション双方とも、IT システムとソリューションの接続と整合性を創造することを必要としている。氏は、多くの利益を実現するために双方のプロフェッション同士協力が必要である：即ち、完全なアーキテクチャ計画、IT システムのインプリメンテーション、首尾一貫性、システム間のインターフェースと標準などである。

今朝の基調講演のまとめとして、**Sheila Thorne 女史, World IT Specialist Profession Leader, IBM** が“Dealing with People You Can't Stand”というテーマで、チームベースでの仕事での人間関係について講演した。女史は、あなた方と一緒に働いている人々とその状況について、特に他人の力について話された。さらに女史は、チームの中での他の人々との係わり合いに特に触れ、彼女のポイントを説明するために逸話を話した。人々は通常の状態を越えて押し込まれた時に問題は発生し、人々が嘔み付いた時に現実に何が起きる？という。女史は人々の4つの重複カテゴリを提起—受動的、積極的、タスク中心、人々中心、そしてお互いの付き合い方、あり方について助言した。最後に劇的な社内の考え方を話し、プロジェクトへの積極的意図とゲームの終わり方の心構えを述べた。

昼食後は、3つのセッション、SOA や EA の導入、プロフェッショナルの育成について様々な内容が参加者に提供された。

**Judith Jones 女史, CEO, Architecting-the-Enterprise, UK** が EA 開発セッションのホストを務めた。

午後のプロフェッショナル育成セッションは、**Andras Szakal 氏, Chief Architect, IBM Federal Software Group** が、“IT Architecture Certification— Basics of the Program and How I get Certified”というテーマで講演を行った。1時間におよぶセッションでは、IT アーキテクトのキャリアとキャリア・パス、IT アーキテクトに求められるスキルと経験分野、ITAC の歴史とその価値、ITAC の各レベルの概要、ITAC ワーキング・グループから

の進捗報告がなされた。

エンタープライズ・アーキテクチャ開発のセッションでは、Bruce Miner 氏, QRS, Canada が、“PAMM-Project Architecture Maturity Model”というテーマで講演した。PAMM は、進行中のプロジェクト状況を評価し、プロジェクトのステークホルダーに報告するメカニズムであり、現在エグゼクティブ・スポンサーや通常のガバナンスの一部として運営会議により求められている。

プロフェッショナル育成セッションでは、James de Raeve 氏, VP Certification, The Open Group, UK が、The Open Group の新しい ITSC とその認証方法について詳細に解説した。

SOA セッションでは引き続き、Liam donohoe 氏, Principal Solution Architect, SAIC, Scotland, UK が“SOA Governance in Practice. a Case Study at BP”テーマで講演し、英国石油が SOA で経験したビジネス・メリットを説明した。大切な事として、企業は迅速性と効率性を上げるためにビジネス・プロセスを変更し、競争力向上のためにその変化を梃子にして行くことだと、氏は言った。

SOA セッションの次は、Rakesh Radhakrishnan 氏, Chief Identity and SOA Architect, Sun Microsystems, US が“Aligning ADM and SOA for Successful EA”というテーマで、ADM と SOA が組み合わせられたときの相乗作用について話をした。氏はまた、ADM と SOA をベースにしたグローバル・テレコム業界における過去の EA アセスメントから得た教訓を述べた。

Dr. Chris Harding 氏, The Open Group UK が午前中の SOA Working Group の一部であった“A Formal Ontology for SOA”について講演した。SOA Working Group では、Web Ontology Language (OWL) を使って、SOA の正式な Ontology を開発中であり、この目的の1つは、a) ビジネスとテクニカルの人々に SOA の概念について理解を深めること、b) また、モデル・ドリブンのインプリメンテーションのベースにすところである。氏は、SOA Ontology は出来上がっているが、レビューを予定している、と言う。

エンタープライズ・アーキテクチャ開発のセッションでは、2つの講演が行われた。The Open Group が新しいフォーラムとして立ち上げた、EA のモデリングとビジュアルライゼーションのための国際言語である ArchiMate についてである。Dr. Harman van den Berg 氏, Founder and Partner, BiZZdesign, Netuerland が ArchMate の主要概念を話し、午後のセッションのホストを務めた。

引き続き、Dennis Kerssens 氏, Principal Architect, Getronics, Netherlandsga オランダの保険会社における ArchiMate の事例を紹介し、そこでビジネス戦略をエンタープライズ・アーキテクチャに連携させた。

Dr. Tim O'Neill 氏, Director, Avolution Pty Ltd. And Research Fellow, UTS が”Pan-Government Enterprise Modeling at Capita”というテーマで講演を行った。Capita は、英国の先進的なビジネス・プロセス・アウトソーシングやコンサルティングを行う会社であり、この会社は全官庁向けのセンターを設立し、氏は、全官庁向けの SOA フレームワークをそのセンターの最初のアウトプットのの一つとして示した。

第2日目のプロフェッショナル育成セッションの最後は、Len Fehskens 氏, Vice President and Global Professional Lead for Enterprise Architecture, The Open Group が”Professionalizing the Discipline of Enterprise Architecture”というテーマで講演された。エンタープライズ・アーキテクチャはまだ真のプロフェッションに到達していないが、プロフェッションの領域の近づくためには、我々はアーキテクト達に如何にして向上し、学ぶべきかをガイドして行かねばならない。さらに我々は、広く共有可能な、実際に使用可能なエンタープライズ・アーキテクチャの定義が必要である; 厳正な認証や倫理的な動きに関するプロフェッショナル標準など。

以上